

<日本史探究④⑦> 室町時代⑤ ~室町文化~ 教科書: P.125~P.133

南北朝文化(室町初期)	北山文化(室町前期)	東山文化(室町中期)	戦国期の文化(室町後期)
-------------	------------	------------	--------------

- | | | | |
|--|--|--|---|
| ① 14c中ごろの文化
② 派手・ぜいたくを意味する
「1.バサラ」と呼ばれる武士がインフルエンサー | ① 14c後半~15c初めの文化
② (2.公家・武家)文化の融合
③ (3.臨濟)宗の保護による禅宗文化の発達 | ① 15c中ごろ~15c後半の文化
② (4.禅)宗の影響を受けた簡素で“シブい”文化 | ① 16c前半の文化
② (5.応仁の乱)による文化の地方波及
③ 民衆が文化の担い手 |
|--|--|--|---|

歴史書・軍記物・有職故実	学問	文学	教育
--------------	----	----	----

- | | | | |
|--|---|---|--|
| ① 『6.神皇正統記』 } 南朝
by <7.北畠親房> } サイド
② 『8.増鏡』 } 公家
③ 『9.梅松論』 → 北朝サイド | ① (15.五山)文学の流行
→ 五山・十刹の制の下で栄える
<16.絶海中津> } 五山文学の
<17.義堂周信> } 双壁 | ① <20.一条兼良>の活躍
『21.公事根源』: 有職故実書
『22.花鳥余情』: 源氏物語注釈書
『23.樵談治要』: 政治意見書
↑ 9代将軍 義隆へ
② (24.足利学校)の再興
by <25.上杉憲実>
→ のちに、ザビエルが「板東の大学」とヨーロッパに紹介
③ 『26.節用集』: 日用語の辞書 | ① 朱子学の地方への広がり
・ 五山の南禅寺の禅僧の
<28.桂庵玄樹>が肥後・薩摩へ移り、(29.薩南学派)の祖となった。 |
| ① 『10.太平記』 → 南朝サイド
① 『11.建武年中行事』
by <12.後醍醐天皇>
② 『13.職原抄』
by <14.北畠親房> | ② 『18.難太平記』 (1402年)
by <19.今川貞世>
③ 『27.庭訓往来』: 教科書
↑ 武士の子弟の教育に用いられた | | |

絵	画
---	---

- | | |
|--|--|
| (30.水墨画) ← 禅僧により伝わる
<31.如拙> 『32.瓢鮎図』
<33.明兆> ・ <34.周文> | ↓ 日本的な30の完成
<35.雪舟> ← 明で技法学が
『四季山水図巻』 『36.秋冬山水図』 |
|--|--|

- <37.狩野正信・元信> が狩野派を確立 (大和絵 + 30)
 <38.土佐光信> が土佐派確立 (伝統的な大和絵)

南北朝文化 (14c中ごろ)

北山文化 (14c後半~15c初め)

東山文化 (15c中ごろ~15c後半)

戦国期の文化 (16c初め)

能・茶道・花道・連歌・その他芸能・文芸

(39. 田楽): 豊作祈願の祭礼
(40. 猿楽): 寺社に奉納する芸

<41. 観阿弥>・<42. 世阿弥>
父子が (43. 能) を完成
『44. 風姿花伝』: 43の理論書
by <45. 世阿弥>

セツで演じられるようになったのが
(46. 狂言)!

(47. 茶寄合) という茶会が盛んに!
→ 茶を飲み比べて産地を当てて
賭け物を争う (48. 闘茶)
が流行

(49. 茶の湯) の流行
豪華な会所を作り、茶会を
楽しむ!
・ 生け花の流行

<50. 村田珠光> が49に禅の
精神を取り入れて、茶室で心の
静けさを求める (51. 侘茶) を創出
床の間を飾る立花様式が定まり
<53. 池坊専慶> が活躍

<52. 武野紹鷗> が
受け継ぐ

<54. 二条良基> が連歌 [上の句と下の句を別の人が交互に詠む]
の地位を上げる (← 和歌と対等になる)
『55. 菟玖波集』: 連歌集の最初
『56. 心安新式』: 連歌の規則書

<57. 宗祇> が
(58. 正風連歌) を確立
『59. 新撰菟玖波集』
・ 東常縁、57に (60. 古今伝授)

<61. (山崎) 宗鑑> はより
庶民的な (62. 俳諧連歌) を創出
『63. 犬菟波集』

・ 華やかなコスプレをして集団で踊る (64. 風流) が 念仏踊りと結びついて、現在につながる
(65. 盆踊り) へ発展した。

・ 民間で歌われた (66. 小歌)
の歌集である『67. 閑吟集』が成立
・ (68. 御伽草子) の流行
絵が入った短編物語。
『物くさ太郎』『一寸法師』

新 仏 教 の 発 展 と 神 道 思 想

南北朝文化 (14c中ごろ) | 北山文化 (14c後半~15c初め) | 東山文化 (15c中ごろ~後半) | 戦国期の文化 (16c初め)

臨
濟
宗

①室町幕府の保護
 ②尊氏、禅僧の<1. 夢窓疎石>を頼り、(2. 天龍寺)を造営
 ・義満、南宋の官寺の制に
 ならって (3. 五山・十刹の制) を整備、(4. 南禅寺)を五山の上
 属さない禅宗諸派である
 (5. 林下)は民間布教へ
 (16. 大徳寺)の
 <17. 一休宗純>が有名
 ◎ (3. 五山・十刹の制): 五山を最高とし、十刹をそれにつぐ官寺とする
 京都五山: (5. 天龍)・(6. 相国)・(7. 建仁)・(8. 東福)・(9. 万寿)の5寺
 鎌倉五山: (10. 建長)・(11. 円覚)・(12. 寿福)・(13. 淨智)・(14. 淨妙)の5寺

一
向
宗
[
浄
土
真
宗
]

神道
 <26. 吉田兼俱>は
 神本仏迹説(神>仏)
 に基づき、神道を中心に
 儒教・仏教を統合しようと
 する(27. 唯一神道)を
 完成した!

<18. 蓮如>(応仁の乱頃)
 ・越前の(19. 吉崎)道場を拠点
 →北陸・東海・畿内に広まる
 ・農民の惣村の結合を利用して
 (20. 講)を組織し、易しい文章の
 (21. 御文)で教えを説いた

→23に敗北し、山科本願寺破却
 →(24. 石山本願寺)(大阪)
 が本拠地に

日
蓮
宗

<22. 日親>『立正治国論』
 6代將軍義教の頃、京都の商工
 業者[町衆]へ広まり、他宗と論戦

(23. 法華一揆)(1532~36)
 京都町衆の信者が一向一揆に
 対抗して山科本願寺を焼打ち
 (25. 天文法華の乱)(1532)
 延暦寺と衝突し、焼打ちを
 受けて、一時京都を追われた

建築と庭園

南北朝文化 (14c中ごろ)

北山文化 (14c後半~15c前半)

東山文化 (15c中ごろ~15c後半)

① 尊氏・直義、国ごとに寺・塔を建立
→ (28. 安国寺)・(29. 利生塔) と命名 (1345年)

① (33. 鹿苑)寺 (34. 金閣)
by <35. 足利義満>
1・2層が寢殿造風
3層が禅宗様

① (36. 慈照)寺 (37. 銀閣)
by <38. 足利義政>
1層が (39. 書院造)
2層が 禅宗様 38の書斎

(39. 書院造)
寢殿造を母体とし、押板・棚・付書院を持ち、襖障子・明障子を用い、畳を全面に敷きつめている。

② (30. 西芳寺)庭園 (1339年)
(31. 天龍寺)庭園 (1345年頃)
by <32. 夢窓疎石> (2つとも)

② (40. 東求堂同仁齋): 39の典型例
③ (41. 枯山水)の様式による庭園が造られた!
(代表例) (42. 龍安寺石庭)・大徳寺大仙院庭園
砂と石だけで造る

・その他重要キーワード

- ① 室町幕府は禅僧管理を委ねた役職として (43. 僧録)を置き、その初代に<44. 春屋妙葩>を任命した (1379年)
- ② (45. 五山版): 京都五山・鎌倉五山を中心に出版された書籍
- ③ (46. 同朋衆): 将軍に芸能・技能をもって仕えた者
(有名な人) 能の観阿弥・世阿弥、河原者と呼ばれた作庭の<47. 善阿弥>、水墨画・連歌の能阿弥など
- ④ 猿楽の専門集団が各地で生まれ、大和国では興福寺・春日神社に奉仕する大和四座が活動!
→ 結崎を本拠とした (48. 観世座)・外山の (49. 宝生座)・坂戸の (50. 金剛座)・内満寺の (51. 金春座)
↑ 観阿弥・世阿弥父子は、脚本である (52. 謡曲)を著し、義満の保護を受け、発展